

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議

第4回 人口保持部会 議事要旨

日時：平成27年7月22日 10時～

場所：議会会議室（市役所本庁舎3階）

1 開会

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1：倉吉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略（骨子案）

資料2：地方創生市民対話集会及び市民アイデア募集について（市報8月号記事案）

資料3：倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議委員名簿（平成27年7月）

資料4：第3回各部会議事要旨

資料1～4について、総合政策課長から説明を行った。

- | | |
|--------|---|
| 福井委員 | ・ 市内13地区での取組とは、どのようなものか。 |
| 総合政策課長 | ・ 地区ごとの施策アイデアをいただき、現時点で骨子案をとりまとめているものを分厚くしたい。 |
| 福井委員 | ・ UIターンなどで倉吉に来る人と迎える側には温度差があるため、縮めていきたい。お互いが向き合う場づくりなどの働きかけをしていただきたい。 |
| 桑原委員 | ・ 特に県外からのIターン者について、地元の取組に協力的な人もいるし、こんなイメージではなかったという人もおり、住んでみてはじめてわかることがあるなど、地元と移住者の関係がうまくいかないパターンを見てきた。
・ 地元の人の中には、ヨソ者は信用できないという人もいる。
・ そのため、事前に移住者同士の交流など、少しずつ距離を埋めていく方が、誤解なく進んで良いと思う。 |
| 山脇委員 | ・ 地元の人がコーディネーターをされると、より細かく対応できる。
・ 大体、公民館長がコーディネーター役をされることが多いが、女性なども入ると、実際の生活や住み心地に直結し、安心感がわきやすいのではないかと。 |
| 桑原委員 | ・ そのようにしてもらった後に、住む地域を探す方が良いかもしれない。
・ 町内会費なども地区により異なり、その違いを知って驚く人もいるかもしれない。 |
| 福井委員 | ・ 移住者の受け入れ時、市から2～3万円の助成があり、飲食にも使える。
・ 知らない自治会長もいるが、ぜひ活用してほしい。 |
| 桑原委員 | ・ 移住者が来ると市から自治会に対して10万円程度の助成が受けられると聞いているが、どのように使われているのか分からない部分がある。
・ フラワーアレンジメントなどで、ある程度集まることはあるが、みんなで何かしましょうということはない。 |

- 福井委員
 - ・ 単に飲み食いするだけではいけない。とんどさんや運動会など、来られた人に説明することが大事。
- 桑原委員
 - ・ 「集まる」という場が大切。集まった人たちで、いろいろと話ができる。
- 地域づくり
支援課
 - ・ 市では、移住者の受け入れをした自治公民館に対して、最大で10万円までの助成をしており、その内、飲食には最大で2万円まで使えるようになっている。
 - ・ 助成については、飲食や懇親会に使われていることが多く、各地区で有効に使われていると感じる。
 - ・ 移住者への施策の成功の秘訣は、受け入れ体制がしっかりしていること。また、情報発信が重要。
- 桑原委員
 - ・ 移住者の中には、地元の活動に協力したいという思いを持つ人と、そうでない人がいて、どうしたらよいか分からない。
- 山脇委員
 - ・ コーディネーターによる事前調整が必要だと思う。市内には13の地区があり、調整に慣れている人とそうでない人がいるが、上灘地区や上井地区などは転勤による出入りがあり、比較的慣れているのではないかと。
 - ・ 地域により、感覚が違うため、一律に同じような交流事業をするのではなく、適切な人員配置が必要。
- 地域づくり
支援課
 - ・ 移住定住は地域の活性化につながるという重要性を情報発信していきたい。
- 桑原委員
 - ・ 高齢者で、地域の活性化を望む人はどのくらいいるだろうか。「このままでいい」「新しいことをしないで欲しい」という声が多いのではないかと。
- 福井委員
 - ・ 少子高齢化の社会であるので、高齢者数は増え、若者は減少する。そうなると税収が減り、公共交通や火事などの防災対策も大変になってくる。
 - ・ このような状況のため、いかに危機があるかということを見える化していくことが大事。
- 多田委員
 - ・ 私は昨年10月に倉吉に帰ってきた。
 - ・ このような話では、意識改革が必要だと思われ、リーダーをつくるのが大事なのではないかと。
 - ・ 京都府の丹後半島の大宮町役場では、40-50代のリーダーシップが発揮できるような人材育成をしている。そこでは2年間にわたるカリキュラムが生まれ、先進地に視察に行き、問題意識を醸成させたりしている。
 - ・ 人材を育成しても、その能力が発揮できる場がないということで、村づくり委員会をつくり、場づくりをした。
 - ・ 何よりも、愉しくやろうということが大事。そうでないと、うまくいかない。そしてネットワークでカバーしていく。
 - ・ 地域では「楽しい」というキーワードが一番重視されている。集まってワイワイガヤガヤとする。そうすることによって主体性、自立性が出てくる。
 - ・ 待っていても何も変わらない。
- 部会長
 - ・ 移住以外にも話題があれば、お願いしたい。
- 多田委員
 - ・ 骨子案を示されたが、戦略の中身の部分には以下の点を盛り込んでほしい。
 - ・ 人口保持に関して、空き家のストックが気になる。散歩をしていて、空き家が

増え、寂しい、活気がないと感じる。空いた資産の活用は大事だと思う。

- ・ また、Uターンするには仕事や生活環境が大事である。さらに、地域に魅力がある、帰ってやりたいことができる、というようなことがあると良い。
- ・ リノベーションや古民家再生という記載があると良い。
- ・ また、岡山市の間屋町では、若い人がレストランなどを開き活気を帯びている。変わったお店が多いので、岡山駅周辺より間屋町を目指す人も少なくないので、参考にさせていただければと思う。
- ・ また、所有者の仕組みや景観の配慮等、考慮する点はある。
- 総合政策課
山脇委員
- ・ 空き家活用については考慮している。いただいたお話を含めて考えていきたい。
- ・ 「ショッピングセンター内に雨天でも子育て世代が集える遊戯スペース整備事業」とあるが、どこをイメージしているのか？パープルタウンか？
- ・ 以前、買い物中にキッズスペースを見かけたが、限られたスペースであり、イメージと違う。大きなスペースで考える必要がある。
- 山下委員
- ・ 子どもと一緒にヨガをするなど、子どもを連れて、広いスペースで何かができることが理想。
- 総合政策課
- ・ 中心市街地活性化計画の中で民間により実施の希望を受けている事業であり、ご指摘のとおりパープルタウンを想定したもの。
- ・ イメージはポーネルドのキドキドを想定しているが、まだ計画段階である。
- 山下委員
- ・ パープルタウンとタウンホテルが連携して、エリア全体で時間を過ごせるようになるとう良い。
- 山脇委員
- ・ パープルタウンの計画の詳細は分からないが、イメージがちょっと違うのではないか。
- ・ つくられた遊びのスペースや大人の考えたスペースというよりは、子どもたち自身が独自に、創造力が発揮できるようなイメージを想定している。
- ・ 子どもは、積木があるだけでも遊ぶ。
- 桑原委員
- ・ 大阪などの都会にあるようなアミューズメントスペースは、倉吉にはない方が良い。コーヒーを飲みながら、本を読みつつ、子どもを遠い目で見られる空間のイメージが良いと思う。
- 総合政策課
- ・ おそらく、いまご指摘いただいた、創造力が発揮できるような場所ということも含め計画が進められている。
- 小鴨保育園
長
- ・ 職員が孫を連れて子育て支援センター「おひさま」に行くという話をよく聞く。休日にも利用できるようになると、我々は施設を運営する側なので大変な部分もあるが、良いかもしれません。
- 山下委員
- ・ おひさまが日曜日にも開いているとう良い。いつも開いてほしい。
- ・ 未就園児が対象となっているが、小学生も対象になると良い。
- 荒瀧委員
- ・ 市の事業では、知らないことが多々ある。市民の末端までが知ることができるように、情報発信してほしい。
- 総合政策課
- ・ 若い人にどのようにして伝えるかということで市では現在、動画やCATVを使い情報発信を積極的に行っている。
- ・ また、市報では、AR動画を見られるように見られるようにしている。さらに

ツイッターなどのSNSも活用し、利用者が使いやすい方法で情報を発信している。

- 山下委員
- ・市のホームページをもう少し検索しやすくしてほしい。例えば、流行中の病気などが分かりやすく検索できると良い。
- 桑原委員
- ・移住を考えると、必ず行政のTOPページが出てくる。倉吉が良い所だということ、パッと分かるとうまいと思った。
 - ・倉吉のわからないことを調べると、何を調べても行政のTOPページに行く。
 - ・鹿野町では専用サイトがあり、見やすい。
- 福井委員
- ・行政にも少し遊び心のようなものが欲しい。例えば、各課にスーパー公務員が配置されるなど、そのような情報を発信してはどうか。
- 山下委員
- ・進学や就職で外部に人口が流出し、失業者が増え、人口が減っている。
 - ・子どもたちの時代が働き易いまちになっているか心配。
- 総合政策課
- ・経済発展については雇用や職に対して希望を持ってもらうような施策、例えば、企業誘致などを継続している。ここ2～3年で500人以上の雇用を創出し、300人以上の実績がある。
 - ・また、既存企業への支援をしており、空き家を使って生業をつくる。例えば、f-bizによる有力な企業相談や観光振興による雇用確保など、力強く推進している。
- 中山委員
- ・おっしゃるとおりで、企業進出は進んでいる。働き手の確保は大変である。
 - ・県内の実業高校の卒業生が県内企業に就職できる仕組みを持つと良い。
- 山脇委員
- ・高校生が県外で就職するのは、一度は県外に出てみたいという思いがあるから。地元の中小企業にとっては、何年か県外で力をつけて、即戦力として迎え入れるやり方がありがたい。
 - ・しかし、県外と地元では賃金のギャップがあり、なかなか帰って来ない状況。
 - ・現在は特段のサポートがなく、企業任せとなっているが、県外に派遣するなどして、能力をアップさせる事業をしてはどうか。
 - ・これは、後継者対策にもつながるのではないか。
 - ・県内でも中部の賃金が低く、若い人たちは中部での就職につながりにくい状況だと聞く。
 - ・個人経営者の中には、雇用する側を増やす必要があるのではないか。そうすれば雇われる人が増える。人をたくさん雇える観光業が出てきても良いかと思う。
- 山下委員
- ・倉吉からもちょっと移動すれば都会に行けるため、高卒の基本給を見比べると、結局首都圏に近いところで職を探す現状がある。
- 中山委員
- ・給料は絶対値ではないと思う。
- 桑原委員
- ・都会でも、まちから少し離れると、実は倉吉とさほど家賃が変わらない。激安スーパーもあるし、交通費も会社から支給されるなど物価もさほど高くない。新婚補助として、月当たり2万円の補助が6年間出るところもある。
- 中山委員
- ・都会では満員電車での通勤が当たり前であるが、倉吉ではそのような心配はない。その他、新鮮な魚をいつでも食べられるなど魅力もあり、このあたりのお金には変えられない部分をどう評価するかということもある。

- ・ 以前は小学生の授業で、鳥取県の副読本があり、歴史や地理を学んだが、現在はどのような状況なのか。
- 岩本企画振興部長

 - ・ 市では、倉吉の歴史や文化をまとめた副読本をつくり教材として活用し、学校でのふるさと学習も行っているが、若者が帰ってくるとこまでの手当てについて今後どうしていくかということが課題。
- 山下委員

 - ・ ニュースで倉吉東高が地方創生をテーマにディスカッションしているのを見た。
- 総合政策課長

 - ・ プレゼンテーションコンテストのテーマで地方創生を取り上げた。開会するとき、石破大臣がビデオメッセージを送っておられる。
- 多田委員

 - ・ 鳥大は9割が県外出身であり、多くは関西から人が集まっている。
 - ・ 卒業生は県外に就職している、というより、地元に戻っていると見た方が良い。
 - ・ 学生たちも知ろうとしていない部分もあるが、中小企業は業務内容の情報発信が弱いように感じる。
 - ・ このあたりを強化する仕組みがあると良い。大学も、行政も考える必要がある。
 - ・ 学生の志向は大企業ばかりではない。例えば、NPOを立ち上げ、シェアハウスの事業をするなど、いろいろな生き方に学生たちは反応するため、いろいろな選択肢を示していくことが重要。
 - ・ お金以外の価値、豊かさ、を教えていく必要がある。
- 部会長

 - ・ たくさん良い意見をいただいた。これをもとに市民対話集会後の部会でまとめていく。

※次回開催日については、対話集会終了後に開催するよう、後日調整する。

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議
第4回 経済の発展・成長部会 議事要旨

日時：平成27年7月16日 10時～

場所：議会会議室（市役所本庁舎3階）

1 開会
（欠席者）麻田委員

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1：倉吉市まち・ひと・しごと創出人口ビジョン及び総合戦略（骨子案）

資料2：地方創生市民対話集会及び市民アイデア募集について（市報8月号記事案）

資料3：倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議委員名簿（平成27年7月）

資料4：安田委員からの提案

資料5：第3回議事要旨（人口保持、経済の成長・発展、人の活躍、地域づくり）

追加資料：吉田委員の提案資料「とっとり地方創生ファンド」の設立について

資料1～5について、総合政策課 毛利企画員から説明を行った。

- 毛利企画員
- ・ 資料1について。「観光」の総合戦略に関わってくる方針として、さらに委員の皆さんから意見を出してもらい固めていきたい。
 - ・ 資料2について。市民対話集会ではワークショップ形式で進め、市民のみなさんから意見を出していただきたい。
 - ・ 資料3について。人の活躍部会の委員であった、山陰合同銀行の山根委員がご都合により退任され、新たに同行の新支店長山本浩一氏が就任した。

追加資料について、吉田委員から説明を行った。

- 吉田（孝）委員
- ・ 起業・事業継承・雇用創出・6次産業の支援に「とっとり地方創生ファンド」を立ち上げた。倉吉市ならではの支援メニューを考えたい。ワンストップでの支援体制やファンド創設も検討していく。市、経済団体との連絡会議を行うなかで、検討していきたい。支援体制について、市とたたき台を作成できた段階でみなさんにもお話ししたい。

田中部会長

- ・ 「とっとり地方創生ファンド」は倉吉の企業も使うことが可能か。

- 吉田（孝）委員
- ・ 使っていただける。実行の段階には至っていないが、すでにお話をいただいている企業もいくつかある。

田村委員

- ・ 市民対話集会の形式について教えていただきたい。

- 毛利企画員
- ・ 自治連の了解をもらいながら若者、女性も含め地域づくりに思いのある人を各自治公民館で3～4人の出席をいただけるようお願いしている。ワークショップ形式によって、少人数でグループになり意見を出してもらいやすい環境を心がけている。

- 田村委員
- ・ 市民対話集会で出た意見を受けて、骨子に反映させるのか。

- 毛利企画員 ・ 反映させる。
 - 栗原委員 ・ 農業のICT利活用は何を意味するのか。
・ ジビエについて、加工処理施設の増設が必要に感じる。可能か。
・ ジビエ事業には関金ハム再生事業も入ってくるのか。
 - 農林課
内川課長 ・ ICTの利活用としては、鳥獣被害対策への利用を想定しており、獲物を罠で捕獲した際に、携帯電話網を活用して、迅速に通知するシステムを想定している。
 - 田中部会長 ・ 加工処理施設については検討していきたい。関金ハム再生事業も再考したい思いがあるので、ジビエに関連づけていける可能性を考えていきたい。
 - 田村委員 ・ 前回「オーガニック推進」の話が出ていたと思うが、骨子案ではどこに入ってくるのか。
 - 毛利企画員 ・ 「オーガニック」事業を進める体制を今回の総合戦略が示す5年間で作り上げることができるかどうか大きな課題となる。総合戦略で、事業内容にまで掘り下げる段階で取り入れる可能性はあると考えている。
 - 田中部会長 ・ 体制として「オーガニック」だけに特化するのではなく、ほかの選択肢も含めた広がりを持てるように余地を残している。なるべく委員の方から出していただいた意見を取り入れた表現を心がける。
 - 吉田委員 ・ 町屋・空き家の利活用では、2年生以上の寮を出た短大生・大学生向けのシェアハウス利用などで対応できないか。
 - 毛利企画員 ・ 人口保持部会で、「空き家ストック活用事業」による移住者の呼び込みに関して意見が出ている。短大との話し合いでは、「テラスハウス」のようなシェアハウス、共同生活の場を提供できないかとの意見も出ている。
・ 骨子最終版は各部会での第4回目が終わり次第、出された意見を追加・反映させ作成する。完成した最終版は市民対話集会にて集まった方にも提示する予定。
- 資料4について、安田委員から説明を行った。
- 安田委員 ・ 結婚で移住してきた女性への情報提供・地域と関係づくりの場の支援がほしい。
・ 働く女性が学ぶ環境として、インターネット配信やDVDの貸し出しなどの支援ができるのではないかと。
・ 不妊治療無料化など出産の環境整備を進めることで、更なる移住者を呼び込めるのではないかと。
・ 農業・林業・その他文化体験でのグループ（企業・学生）への対応を考えていってはどうか。
・ 婚活の前段階ステップとして、男子力アップをはかる、サバイバルキャンプを実施してみるのはいかがでしょうか。
・ 廃線を利用した、トレッキング、ウォーキング（ガイドと共に倉吉の要素を盛り込んだストーリー性のあるルートも作成する）、サイクリングを考えたい。
・ 子ども目線でのうれしい情報（遊び場など）を載せた「こどもマップ」作製によって、家族連れの利用を増やしたい。
 - 吉田委員 ・ 地方創生に関係なく、今からでもすぐ改善できる提案内容もあるのではないかと。

- 安田委員 ・ そうです。提案を聞いていただける機会がなかなか無いので、ご提案させていただきます。
- 毛利企画員 ・ 倉吉の特性として「歴史」と「自然豊か」なまちに加え、+ α 何かがほしい。
- 安田委員 ・ 「アニメ」を押し出したり、「歴史」を押し出したりと、一貫性を感じられない。
- 観光交流課 ・ 方向性をしっかりと出さなければいけないと感じている。
- 山根課長
- 毛利企画員 ・ 市として、「観光」事業の方向性を出していく必要を強く感じており、この部会でもそのような話し合いができればありがたい。
- 名越委員 ・ 倉吉として「売り」の無い現状から、おもてなしが優れているなど「日本一」としてアピールできる具体的な案を考えていきたい。MICE協会の協力のもとコンベンションなどで倉吉を訪れた方に半日、一日の倉吉でエクスカージョン（地域での体験型見学会）を実施するのはどうか。
- ・ 外国人観光客をターゲットにした、景観や古民家宿泊施設などの充実を図るのはどうか。
- ・ 「ふるさと再発見ウォーク」などの文化ウォークのルート作りが大切だと思う。
- ・ サバイバルキャンプは男性にとっても興味深いものだと思う。
- ・ 地元出身者の都市在住者が縁ある人を倉吉に連れてくることで、観光に+ α の意味を見いだせるのではないか。
- 田村委員 ・ 「オーガニック」の村づくりは長寿・健康・安全と多方面にわたり関係している。生き方にも通じる言葉だと感じている。
- 加藤委員 ・ 交流人口の増加に対して、雇用の場を提供できれば定住人口の増加、経済活動の活性が見込めるのではないか。
- 名越委員 ・ 人口ビジョンにある出生率の目標数値は1.8以上でもいいのではないか。出生率を上げ、進学で出た子供たちに帰ってきてもらい、進学で倉吉に来た子供たちに残ってもらう施策で対応していきたい。
- 毛利企画員 ・ 人の活躍部会で、ふるさと教育、キャリア教育、大学（鳥大、環境大など）との連携により、雇用・定住へつなげていく話がされている。
- 加藤委員 ・ 出生率の高さでは湯梨浜町が有名である。暮らしやすさ、施設やサービスの充実などが大きくかかわっている。森林組合としては誕生祝で「木のおもちゃ」配布を検討していく。

3 次回の開催について

- ・ 次回部会の日程については9月中旬から下旬で調整する。総合戦略案を提示する。
- ・ 7月30日（木）から8月28日（金）にて市民対話集会を実施する。

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議

第4回 地域づくり部会 議事要旨

日時：平成27年7月14日 13時30分～

場所：議会会議室（市役所本町舎3階）

1 開会

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1：倉吉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略（骨子案）

資料2：「日本版CCRC」構想について

資料3：地方創生市民対話集会及び市民アイデア募集について（市報8月号記事案）

資料4：倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議委員名簿（平成27年7月）

資料5：大江委員からの意見について

資料6：田中委員からの意見について（まめんなかえプロジェクト）

資料7：第3回各部会議事要旨

資料1～4について、総合政策課から説明を行った。

■廣谷委員提供資料「安心して楽しく健康ウォーキングができる町」

観光交流課 【資料の概要説明】※詳細は資料参照

- ・ 全国的に健康志向が高まっており、倉吉でも山陰未来ウォークが定着しているところ。
- ・ そこで、市内全小学校区に健康ウォーキングコースを設定し、整備を進めていく。
- ・ 安心して楽しく郷土の学習や食事も提供できる町を市民・圏域民だけでなく、全国に発信する。
- ・ 開会式には鳥取県と縁の深い「ハイキングウォーキング」さんをお呼びするなどして盛り上げる。

【意見など】

- 川村委員
- ・ ウォーキングに限定しなくても良いのではないか。ウォーキング自体をウリにするのであれば構わないが、歩行者専用道路を利用するイメージであれば、ランニングや自転車でのツーリングなども想定しておいた方が、汎用性があり人を呼び込みやすいと思う。

■大江委員提供資料（資料5）

「1. 体験型教育旅行の推進」、「2. 若者が求めやすい宅地の提供」、「3. 退職時期の就農者支援」

大江委員 【資料の概要説明】※詳細は資料5参照

「1 体験型教育旅行の推進」

- ・ 都市生徒との交流、農家の副収入取得を目指し推進
- ・ 市内生徒に対し、地域への愛着や誇りを植え付ける体験を提供
- ・ 拠点となる施設の検討

⇒山守小学校を体験型教育旅行の拠点として活用し、山守地域のコミュニティの拠点として機能の集約を進める。

「2 若者が求めやすい宅地の提供」

- ・ 山守地区を例に挙げると、山守保育園跡地など、行政財産を宅地として提供し、若者の定住に繋げる。
- ・ 民有地を行政が取得し、宅地として提供できれば、小鴨地区のように子育て世帯の増加が見込める。
- ・ 40歳までの若者

「3 退職時期の就農者支援」

- ・ 40歳未満の新規就農者への支援はあるが、60歳以上も対象とした支援制度も必要。

【意見など】

川村委員 「1 体験型教育旅行の推進」について

- ・ 「梨記念館」を教育旅行の一環に取り入れて欲しい。市内生徒だけでなく、市外生徒も含めたものになれば良いと思う。

企画振興部 長 関金を中心とした体験旅行も検討する必要があると思う。

- ・ 観光については、倉吉観光マイルス協会や観光協会などが窓口となるが、個々に活動するのではなく、周辺市町村も巻き込んだ広域観光の拠点をつくり、充実させていく必要がある。

生涯学習課 廃校の跡地利用の仕組みが現時点ではわからないが、山守小学校の跡地利用計画がなければ、体験型教育旅行の受け入れ施設として活用することを考えていきたい。

岩垣委員 「2 若者が求めやすい宅地の提供」について

- ・ 田舎の住民は法事があることを理由に空き家を売らないし貸さない。北谷には約40件の空き家があるが、そのうち貸しても良いと答えてくれるのは数件と言う状況。

西河委員 空き家の持ち主と移住者を取り持つコーディネーターが必要。また双方で空き家を貸したとき、借りたときのイメージを持ってもらうため、モデル事例を作る必要があると思う。

■西河委員提供資料「地域資源の循環」－女将の恩返し－

西河委員 【資料の概要説明】※詳細は資料参照

- ・ 以前の資料から、2ページ目を追加した。「個の力を活かし、つながり続ける環境整備」が必要である。具体的には、世代に関わらず個の力を持ち、地域を良

- くしたいと思う気持ちを、住民・事業者・行政が協力して具体化させたい。
- ・ また、関金全体をアトラクションの場とし、Iターン者だからこそ見える関金の良さを発信していきたい。
 - ・ 京都祇園の錦市場でわさびを販売しているのを見かけたが、外国人観光客が興味津々で見ている。これはチャンスと捉え、関金わさびを売り込んだところ、販売の契約を交わすことができた。このように、わさび生産者とそれを売り込む人の双方が協力してはじめて商品が売れることを再認識したが、関金のなかでも、移住者と地元住民とが役割分担をすれば、双方の良さが発揮されて好循環が生まれると考える。

■ 田中委員提供資料（資料6）「まめんなかえプロジェクト」

田中委員 【資料の概要説明】 ※詳細は資料⑥参照

「まちの保健室の運営」について

- ・ 「ほぼ住宅、時々入院」をキーワードに、地域住民が運営していくことを想定。
- ・ 地域の看護師の中で、フルタイムで働けない高齢な方や、子育て中の方の協力を得る。
- ・ 13地区の公民館を保健室とする。
- ・ 地域の高齢者に対しては、国内版CCRCの役割を担うことができる。
- ・ 地域の若者に対しては、子育て夫婦などに対しても、「まちの保健室」に子どもを預けながら自分の健康診断もできるシステムを想定している。

「まめんなかえ師範塾」について

- ・ 鳥取看護大学、鳥取短期大学による生涯学習で、受講し単位取得（まめんなかえ師範免許状）すれば、「まちの保健室」運営のためのリーダーやコーディネーターができる。

【意見など】

- 岩垣委員
- ・ 「まちの保健室」アイデアは賛同できる。課題としては、健康診断自体が人の集まりが悪いため、「まちの保健室」を「いつ・どこで」実施するのかをしっかりPRするように工夫し、たくさんの住民に利用してもらうような検討も必要になると思う。

3 次回の開催について

- ・ 次回の会議は9月中～下旬を予定し、別に調整する。